



海外生活 だより

北京事務所

北京でバスに乗ってみれば

(財)自治体国際化協会北京事務所所長補佐
水越 稔子(京都府派遣)

はじめに

ここ北京での日常生活の主な交通手段といえば、地下鉄・バス・タクシー・自家用車・自転車です。その中で、観光客と駐在員はタクシーと地下鉄をよく利用しますが、タクシーは、時間帯や天候によって乗車ができないことや渋滞に巻き込まれることが多く、地下鉄は、渋滞の影響を受けず路線も多いなど便利な半面、最寄り駅から目的地まで10分以上歩くことも珍しくありません。

バスは住民の皆さんにとって身近な乗り物ですが、外国人にはハードルが高く、私も中国に限らず、他の国を旅行した時も利用したことがありませんでした。しかし、目的地の近くにバス停がある、運賃が格段に安いなど、利点が多いため「生活するのだから、頑張ってバスを乗りこなせるようになろう」と思い、通勤でバスを利用してみたところ、思いのほか便利で、現在は、通勤以外でもバスを利用することが多くなりました。

そこで、今回、北京のバスについてご紹介します。

バスの概要

北京のバスは、北京公交集団(旧・北京市公共交通。2005年1月1日改称)が運営しており、郊外への路線も含め、細かく分けると約1,000(!)路線あります。バス車両の種類も豊富で、1両バスのほか、2両連結のバス、トロリーバス、2階建てバスなどが走っています。エアコンのあるバスも増えてきましたが、エアコンのない年季の入ったバスも現役で走っています。また、近年、環境に配慮するため、少しずつ、ハイブリッドバスも導入されています。



2両連結のトロリーバス

運賃は1元(日本円で約16円。2013年6月現在)均一の路線とキロ区間制で12kmまでが1元、それ以降、5kmごとに0.5

元加算されていく路線があります(一部例外あり)。車掌が乗務しているバスが結構多く、乗車後、車掌からチケットを購入するか(ワンマンバスの場合、運転席横の運賃箱にお金を入れます)、IC製の交通カード(一卡通(イーカートン)と言います)で運賃を支払います。カードを使用する場合、運賃が6割引(1元→0.4元)になるため、カードを使用する乗客がほとんどで、車掌からチケットを購入する乗客はあまりいません。

いよいよバスに乗車

目的地に行く時、どの路線のバスに乗ればよいか分からない場合、日本と同様に携帯・パソコンのサイトで簡単に調べることができます。また、書店などで買える「指路者」という本(バスや地下鉄、空港リムジンバスなどの公共交通機関の情報を網羅)があり、主な大学、病院、公園や観光地などを通るバス停の一覧も掲載されています。

どのバスに乗ればいいのか確認し、いよいよバス停に。中国のバス停には、写真を見て分かるように時刻表がありません。都市の中心部を走るバスは本数も多く、同時に2、3台来ることもあり、あ



北京のバス停

まり不便は感じませんが、時々、15分以上、ひたすら待つこともあります。

バスが到着したら、1両バス（扉2つ）は前の扉から乗り、2両連結バス（扉3つ）は真ん中の扉から乗ります。

車内の様子

バスに乗車後、最初に運賃を払います。カードを利用する場合は読み取り機にかざします。



カード読み取り機と運賃箱

運賃を払い終えたら席へ。立つ場合は、つり革がないため、天井に平行に設置された棒や座席などにつかまりますが、運転が乱暴なことが多いため、しっかりつかまらなると倒れそうになります。席は、普通の席と別に、日本と同様にお年寄り・体の不自由な人用の優先席（黄色の席）があります。車内がすいている場合、一般の人も座っていますが、お年寄りや子供を連れた女性を見ると、すぐに立ち上がって席を譲ります。普通の席に座っている乗客も同様です。以前、赤ちゃんを抱いた女性が乗車してきたら、すぐに車掌がドア付近の席に座っている乗客に席を譲るよう促し、乗客も当然という感じで従っている姿を目撃しました。また、私の母が北京に遊びに来てバスに乗った時も、若い中国人男性がすぐに立ち上がり、席を譲ってくれました。「中国人はマナーがあまり良くない」というイメージを抱きがちですが、高齢者などに対する心遣いは日本人より上だと感心します。



車掌（左の女性）が乗務しているバス。車掌が乗務しているバスの場合、車掌が大声で「早く乗って」「混雑しているから、前につめなさい」など指示を出すことが多く、次のバス停について車内アナウンスや電光掲示板が流れるバスの場合でも、ほとんどの車掌が「次は〇〇です」と大声でアナウンスしてくれるため、車内に車掌の声が響き渡ります。

一方、乗客については、（とくに通勤時間帯は1人で乗っている乗客も多いため）携帯電話で話をしている人を見かけることはありますが、携帯電話やモバイルツールで、チャット、メール、ネットや動画の閲覧、音楽鑑賞をしている人が多く、日本とほとんど変わりません。

バスはほとんどのバス停で止まりますが、乗客が少ない時や停留所で待っている人がいないと飛ばされる可能性もあるので、バスから降りる時は、「降りる」意思表示をします。日本のような合図ボタンはありませんので、ドアの付近に立って意思表示をすることが多いです。バスが混んでいる時は、ドアの付近に行くことが大変ですが、みんな「下！（シア＝降りる）」と言いながら、人をかき分けていきます。カバンなどがぶつかっても気にせず、とくに謝ったりもしません（私は最初の頃、大声を出しながら、人をかきわけることができずに目的地を通り過ぎたことがありました）。降車時、カードでキロ区間制のバスに乗車した場合は、もう一度、読み取り機にカードをかざすことが必要です。

さいごに

バスは運賃が安いこともあって、本当に多くの中国人が利用しているため、乗客を観察していると、中国人の日常生活を垣間見ることができて楽しいです。前述した、中国人の高齢者に対する心遣いは、バスや地下鉄に乗って初めて気づいたことです。「中国は本当に人口が多い」ということも、同時に同じ路線のバスが2、3台続けて来た時、どのバスにも人が多く乗っているのを見て実感しました。

また、バスの車窓から北京の街並みを観察していると、近代的なビルが建ち並んでいるエリアから少し走った所に昔ながらの住宅街が残っていることも多く、住宅街の近くのバス停で途中下車をして、短時間、散策を楽しんだりもしています。

外国人にはハードルが高いバスですが、北京に何回も行ったことがあり、時間に余裕がある時、一度バスに乗ってみると新たな発見があるかもしれません。